

第 1 回 碧南市 景色づくり委員会 議事録

◆日時：平成 22 年 12 月 22 日（水）

◆時間：午後 2 時 30 分～午後 4 時 20 分

◆場所：碧南市役所 2 階会議室 3

◆出席者：

役 職	所属団体・職	氏名	分 野
委員長	愛知県立芸術大学 デザイン専攻・美術学部 准教授	水津功氏	学識経験 (デザイン)
副委員長	名古屋大学大学院 環境学研究科都市環境学専攻准教授	村山顕人氏	学識経験 (都市計画)
委 員	名古屋大学大学院 環境学研究科都市環境学専攻教授	清水裕之氏	学識経験 (建築)
委 員	碧南商工会議所	遠山良徳氏	商工業
委 員	あいち中央農業協同組合 営農部 副部長 兼 碧南営農センター長	小笠原勝人氏 (代理)	農業
委 員	(社) 愛知建築士会碧南支部 支部長	杉浦学氏	建築
委 員		石川治氏	公募市民
委 員		伊藤玉山氏	公募市民
委 員		古久根枝里氏	公募市民
委 員		竹原幸子氏	公募市民
委 員		鳥居正樹氏	公募市民
委 員		藤岡旭氏	公募市民
	碧南市長	禰亘田政信氏	
顧 問	愛知県建設部公園緑地課 課長(代理)	高野昌彦氏	関係機関
顧 問	愛知県建設部都市計画課 課長(代理)	川上晃一郎氏	関係機関
	愛知県建設部公園緑地課	今成優海氏	関係機関
(出席者 16 名の内、委員 12 名)			
事務局	建設部 部長	西岡敏博	
	建設部 都市計画課 課長	中村正典	
	〃 主幹	上田敏隆	
	〃 課長補佐	亀島弘樹	
	〃 担当係長	長谷川和幸	
	〃 主査	金田雪雄	
	昭和株式会社	白崎益恵	
		岩附香弥	

※欠席者：清澤トキ氏(公募市民)

◆内容：

1. あいさつ

碧南市長より開会のあいさつを行った。また、景色づくり委員会顧問高野昌彦氏、川上晃一郎氏からご挨拶を頂いた。出席者の自己紹介、資料の確認を行った。

《市長のあいさつの概要》

日頃、市政にご理解頂きお礼を申し上げたい。

碧南市では、平成 19 年 3 月に景色づくり基本計画を策定し、様々な景色に関する活動に取り組んできた。平成 17 年度からは愛知県立大学の水津先生の協力のもとに、景色を集める会の中で地域の資源を写真等に納めてきた。平成 20 年からは碧南の景色フォトコンテストを行っており、今年度は 146 点の応募があった。

景色は「財産」であると同時に、「守る」、「つくる」、「発見する」など様々な側面があるものである。来年の 2 月には景観行政団体になり、景観法に基づき景観計画を策定していく。皆様のご意見を頂き、碧南らしい景色づくりを進めていきたい。また、「最小限の規制」で「最大限の効果」がもたらされる方法を考えていきたい。

2. 議題

(1) 景観計画の策定体制について

事務局より、資料 1 について説明及び第 1 回作業部会の報告、委員長、副委員長の選出を行った。委員長は、市長の指名により水津功氏が就任した。副委員長は、委員長の指名により村山顕人氏が就任した。

(2) 景観計画策定について

事務局より、資料 2 について説明を行った。

(3) 碧南市の景観行政について

事務局より、資料 3 について説明を行った。質疑応答は以下のとおりである。

【質疑応答】

委員長) 資料 3 について何か意見はあるか。

顧問) 資料 3 の 1 頁の中で歴史まちづくりの取組みについても触れる必要があるのではないか。

A 委員) 愛知県国土利用計画審議会での第4次国土利用計画や生態系ネットワークに関する報告書についても触れたほうがよい。

B 委員) 4 頁から 6 頁の景色資源には應春寺の松も入れた方がよいのではないかな。

委員長) 分布図について、小道や路地等は点で表現するよりも線で表現したほうがよいのではないかな。また、景観を考える上ではふちどりが重要であると考えている。4 頁から 6 頁の景色を構成する要素の整理の中では、西端地区の斜面の緑地はみちすじに入っているが、ふちどりに入れるべきではないかな。この資料の中身については、今後の会議の中で変化していくと思う。

C 委員) 油ヶ淵の県営公園との関わり方も資料の中で触れた方がよいのではないかな。

委員長) 市の関連計画も参照すべき資料があれば、リストアップするべきではないかな。

A 委員) 地形図、地質図等を使って地形を把握したい。

委員長) 碧南市は微地形が大変面白いので、地形は押さえない。9 頁の課題の整理についても今後再整理していく必要がある。

C 委員) 美しい愛知づくり景観資源・38 資源は、4 頁からの 6 頁の表に載っているのか。

事務局) 全て載っている。(美しい愛知づくり景観資源・38 資源の内容を説明した。) 碧南市のホームページからも参照できるのでぜひご覧頂きたい。

委員長) 景色資源の整理をする際には、出典先が分かるように整理をしたほうがよい。出典毎にマークを付けるだけでもよい。

副委員長） 9 頁の課題の中に「④段階的な運用」とあるが、課題を個々に検証していく必要もある。また、「⑦良好な住環境の形成」のなかで、「密集市街地、住工混在の解消を図り、緑豊かでゆとりと潤いのある住宅地の形成が求められる。」とあるが、密集市街地を整備すると、昔ながらの路地が失われることもある。相反する問題だが、委員会の中で議論していく必要がある。

委員長） 景観について、対立する問題が往々にしてある。対立する問題が出てきた時に有耶無耶にせず、しっかり考えることが重要である。

C 委員） 対立する問題としてよく発言するのは、セットバックに関する問題である。建築基準法に基づくセットバックを行うことと景色づくりとの兼ね合いは、難しい。

委員長） ルールのことだけを考えると、対立関係が生まれてくる。何が必要なのか、もう一步踏み込んだ議論が必要である。例えば、セットバック等を行って道路を整備する場合、土地を切り売りたいから道路を整備するのか、住む心地よさを求めて整備をするのか、きちんと明らかにする必要がある。場合によってはセットバックをしなくても解決する方法があるかもしれない。

C 委員） 西端地区は市のモデル地区として建築基準法のセットバックを進める取り組みを行っている。消防法などの観点から言えば、災害時に備え、緊急車両が通りやすくなるよう道路を拡幅していく必要があるが、一方で道路を拡幅することで自動車の進入が増えるため、子どもたちの通学路として安全とは言えない。落とし所をどこに持っていくのかが非常に難しい。景観計画の策定にあたっては、庁内で作業部会を行っているとのことなので、部を超えて横断的な議論を進めてほしい。

A 委員） そのような意味でもきちんと議論をするために、データを集めてほしい。学校区や自治会のエリア、市内の道路幅員等を把握したい。9 頁の課題の整理については、鳥の眼、蟻の眼だけでなく、蝶の眼くらいの中間の目線から考えることも必要である。また、景観計画の中では、文化、福祉も連携したい。

委員長）市では様々な計画を策定しているが、それぞれの計画間の連携が重要である。環境基本計画とのすり合わせも行っていく必要がある。

A 委員）子どもを巻き込む場合、教育委員会との連携も重要である。

顧問）岡崎市では地形が盆地なので岡崎城を望むスカイライン等を守る高さ制限を検討していた。碧南市において、眺望景観について検討する可能性はあるか。

委員長）6 地区を調査した感覚としては、眺望というわけではないが油が淵の段丘の緑地から旭の森に向かうラインや寺社の屋根のライン等、スカイラインをつくる資源がとても良い景色をつくり出しているエリアがあった。このような景色がまだ碧南市には残っていることを、きちんと評価していく必要がある。

A 委員）眺望というよりもひろがり感とまとまり感のバランスが碧南市の良さではないかと思う。

委員長）本日の会議全般について意見があれば頂きたい。

D 委員）碧南市の景色について様々な角度から考えられる資料があると良い。以前、大浜地区の幅員の資料等があったような気がする。

E 委員）第三者の目線から言うと、前浜町と川口町の松並木は景観としてとても良い。しかし、地区住民から「落ち葉が邪魔だから切ってほしい。」といった意見もあり、道路に出ている枝は切ってしまった場所がある。地元住民と第三者の目線は異なる。これはとても難しい問題である。

F 委員）幼い頃から中央地区の中山神明社にある桜の木を見て育ってきたが、最近切ってしまっていて淋しい。

委員長）松を守りたいと思う人、切りたいと思う人、それぞれの理由がある。今を生きる人々が資源をどのように評価するかが重要である。景観に関する取組みは、ゆっくり進めていくしかない。

G委員）市民への景観に対する意識づけがまだできていない。市民へのピアーアールをしっかりとやっていかななくてはならない。民間会社の知恵等を活用してはどうか。

委員長）そういった意味では、景色づくり委員会は時限がある。今後も景観をどのようにしていくのか継続的に議論していける場が市民の中には必要である。そして、議論していく過程で現時点の評価からさらに熟成した評価となっていくと良い。

A委員）文化に関する日常的な活動があると良い。

H委員）油ヶ淵の水質調査に参加して、昆虫がいなくなったと気づいた。それから昆虫の写真を撮影して展示会にも参加している。1月にも水辺をテーマに昆虫等の写真展をやっていく。子どもたちにぜひ油ヶ淵のことを知ってもらいたい。

委員長）ぜひ頑張ってもらいたい。

A委員）今後の会議の際には、プロジェクターを置いて地図を表示して現地の様子を確認しながら、議論できるようにしてはどうか。

副委員長）会議の回数も少ないように感じるが、効率的に進めていきたい。

事務局）資料は事務局で再度検討し、できる限り多く出していきたい。第1回の作業部会でも様々な叱咤激励を受けている。市長が挨拶の中で言われたとおり、「最小の規制で最大の効果」が出せるように、その方策を今後も十分に考えていきたい。また、碧南市では市民の自主的な取組みを行う場が沢山ある。景観に関する取組みとしては人づくりも重要なテーマであるため、市

民との協働によりしっかり取組みんでいきたい。

4. 連絡事項

事務局より、以下のとおり連絡事項をお伝えした。

- ・第2回碧南市景色づくり委員会 2月16日（水）午後2時30分から
- ・景観行政団体認定の記念講演会 2月27日（日）

5. 閉会

－以上－